決算審査特別委員会 における各会派討論

◎会派清新

歳出ではコロナ禍での市独自の各種経済対策やひとり親家庭への支援策について、限られた自主財源での執行を評価する。ワクチン接種事業については、様々な準備にあたり大変苦労されたと推察するが、感染症対策や災害対応等の有事に備えた職員配置の再考と併せ、苦情対応にあたる職員のメンタルヘルスケアに十分配慮する必要があると考える。

病院事業会計については、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金等の補てんにより純利益は確保したが、コロナ終息後を見据え、医業収益の確保、経費節減、看護師や医師の確保など経営の安定化に向けた取り組みを進め、市民が安心して暮らせる環境づくりに努められることを望む。

◎新政会

コロナ禍による制約がある中、ふるさと納税の積極的な推進等により一般会計で剰余を生じたことは評価する。コロナの影響で受診控えと障がい者や高齢者の閉じこもり傾向が見られ心身機能の低下が懸念されるため、影響が出ていないか注視し必要な対策を行うこと、G I G A スクールのスムーズな推進に向け、教員への研修の充実を図ることを要望する。

下水道管の老朽化対策などによる企業債の増加など厳しい経

営状況が続く見込みであるため、滝川市公共下水道事業経営戦略を着実に実施すること、ならびに滝川市立病院経営改善計画に基づき、看護師の確保や病床の再開など、経営の安定化に向けた取り組みに尽くされ、質の高い医療の維持向上を実現することを期待する。

◎会派みどり

ふるさと納税は社会変化に応じた新しい試みを進めさらなる財源確保のため検討すること、未収金の回収に向けて市税徴収員の増員を図ること、危険な空き家対策として代執行などを積極的に実施すること、災害に強い滝川市を作るために備蓄品の増強などを念頭に対応するよう望む。

また、各特別会計及び公営企業会計においては、一般会計からの繰入金で収支のバランスをとっているが、各会計においてはさらなる健全な経営感覚を身に付けていくこと、病院事業会計においては、コロナ禍で資金不足等厳しい経営状況にあり、現在、市立病院経営改善計画に取り組みられているが、地域に根差した質の高い医療を目指し、重点取り組みの確実な実行に努めることを期待する。

◎公明党

コロナの感染拡大防止に取り組むなかで、持続可能な財政基盤を築くために策定された滝川

市第2期財政健全化計画の当初予定期間の7年間で10年間とする修正変更を行うことになり、この間の職員、理事者、医療に携わる皆様のご苦労とご努力に敬意を表する。

今後の少子高齢化を見据え、公営住宅の設置場所は、病院・市役所・スーパーなどに近い所を検討すること、また市立病院の役割は、市民にとって必要な医療を、採算を重視する民間とは異なり提供することにあるが、そのようなハンディを負いながら、健全経営を目指すことの大変さは十分理解している。「患者の満足のために頑張ることが社会の発展になり、自分のためになる」との意識改革の取り組みを期待する。

◎日本共産党

新たに非課税世帯の小学生の通院に対する助成が実現したことを高く評価し、病気にかかりやすい年齢の子どもが等しく心身ともに健やかに成長できるよう助成対象のさらなる拡大に取り組むこと、また、保育所の職員の充実に取り組み、一人ひとりの子どもたちに目が行き届き、保護者が安心して託せる保育所づくりを望む。

コロナ禍で特に商工業関連事業者が大きな影響を受けたことを踏まえ、地域振興に積極的に取り組んでいただきたい。

教育費は、長期欠席にある児童生徒への切れ目のない支援をさらに進めること、また、学びの際に発生する事故を防ぐための安全対策を着実に進めることを要望する。